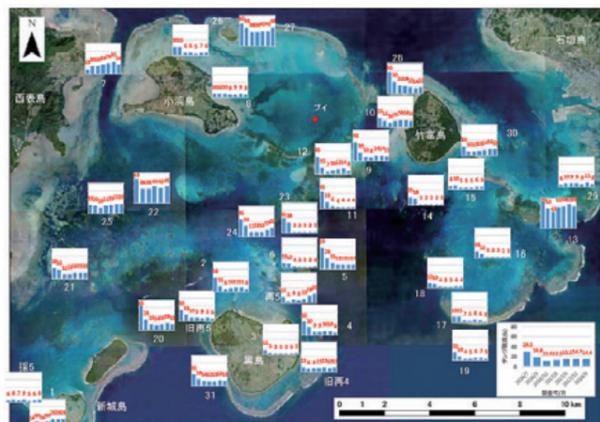
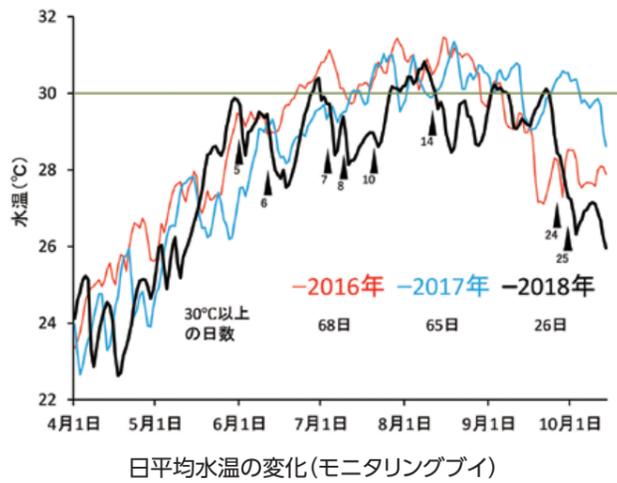


石西礁湖

自然再生



石西礁湖はいま シリーズ 24



地点別サンゴ被度(2016年7月~2018年9月)

2018年の石西礁湖は、複数の台風が夏の間にこの海域に接近したことも影響し、過去2年に比べると水温が低い傾向がみられました。スポットチェック調査の結果からも、2018年は、石西礁湖全体で大規模な白化は見られず、サンゴ被度は2017年よりわずかに増加したことがわかりました。また属ごとでは、ハナヤサイサンゴ属で白化が多くみられ、ミドリイシ属ではあまり白化がみられませんでした。

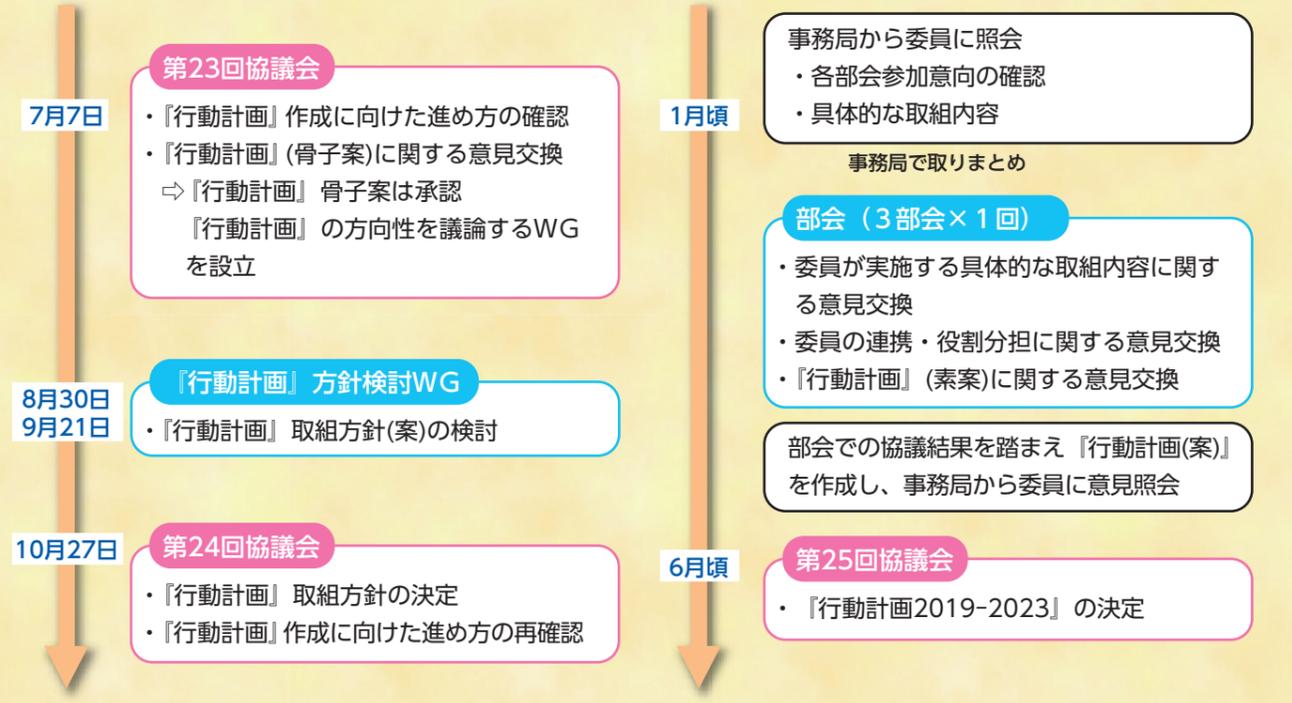
地点別のサンゴ被度は、枝状のミドリイシの優占する地点では、2016年、2017年も白化の程度が低く、今年も被度が維持または増加の傾向を示している地点が多く、また、2016年に高水温を生き延びたと考えられるコリンボース状のミドリイシ小型群体がいくつかの地点で見られました。

石西礁湖では、礁湖外縁北側などの比較的水温が上がらない地点がある一方、礁湖内側など水深が浅く高水温が続きやすい地点があり、それらの地点間における海水の流れや水温の差がサンゴの状態を左右している要因の一つとなっています。

今後、サンゴにとっての好適な生息環境を監視し、石西礁湖の自然再生を図るために、どのような取組を行っていく必要があるかを、考えていく必要があります。

2018年の石西礁湖

行動計画の取組方針(案)や計画作成に向けた今後の進め方について



- ・「全体構想行動計画2019-2023」取組方針(案)が提示され、石西礁湖自然再生を取組方針の3分野と15の方針に基づき実施していくことが提案されました。
- ・委員からは、赤土等土壌や栄養塩類の流入を減らす具体的な目標を示すために、調査と調査結果に基づく具体的な数値目標が必要であるとの意見がありました。
- ・取組方針は具体的な数値を示すのではなく、全体の方針を示してこれに向かって取組んでいくこととの説明がなされ、了承されました。
- ・行動計画作成に向けた今後の進め方について、行動計画決定までのスケジュールと取組内容シートの記入が説明され、計画作成後の取組の周知が必要との意見がありました。

サンゴ学習WGが設立されました

- ・エコツアーふくみみの大堀委員から、サンゴ礁保全を目的とした環境教育活動の推進と、サンゴ学習の地域ブランド化、サンゴ学習を希望する学校に対応するための施設の必要性について説明があり、これらを議論するサンゴ学習WGの設立が承認されました。

・発起人

- | | | |
|------------|----|-------|
| エコツアーふくみみ | 代表 | 大堀 健司 |
| わくわくサンゴ石垣島 | 代表 | 大堀 則子 |
| コーラルバンク | 代表 | 小林 鉄郎 |



編集発行 石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾空港技術対策官

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内
 【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279
 【石西礁湖自然再生ホームページ】<http://sekiseisyouko.com>



第24回石西礁湖自然再生協議会を開催しました

平成30年10月27日(土)に、八重山合同庁舎において「第24回石西礁湖自然再生協議会」が開催されました。今回の協議会は9個人、11団体、11行政の31委員と、一般傍聴を含む42名が参加しました。

第24回協議会は計116委員(個人40名、団体・法人44機関、地方公共団体23機関、国9機関)の体制で、新規委員として、新たに2委員(個人:鈴木倫太郎氏、団体:コーラルバンク)が紹介され、協議会で参加が承認されました。

全体構想の長期目標を実現するために、取組方針の基本的な考え方を整理しました

■石西礁湖自然再生全体構想の目標

長期目標：人と自然の健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標：サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

取組方針の基本的考え方(方向性)

「石西礁湖自然再生全体構想」における長期目標の実現を目指し、「行動計画2019-2023」における取組方針については、次の基本的考え方(方向性)をもとに作成します。

- 「大規模な攪乱」(大規模な白化、オニヒトデなど)が今後も続くことを前提としながら、サンゴ礁生態系の健全性を維持し回復を促進するため、各分野の取組を継続する。
- 長期的な視野に立ち、サンゴ礁の回復状況を監視するためのモニタリングを継続的に実施し、得られたデータを個別の取組の促進や検証に有効活用し、総合的な取組を促進させる。
- 陸域からの環境負荷を低減させるための具体的対策を実施するとともに、対策効果の評価方法及び体制を構築することに重点化を図る。
- 協議会構成員の連携、協力関係を引き出し、協議会全体としてより効果的な取組が可能となるよう、相互の情報共有や意見交換を積極的に行う。
- サンゴ礁の現状や保全の重要性について、広く理解を求め取組に協力してもらえよう、様々な機会を通じて普及啓発を進める。
- サンゴ礁の保全に関する活動や取組の広がりを通じて、八重山の持続可能な豊かな地域社会づくりにつなげる。

「石西礁湖自然再生全体構想 行動計画2019-2023」の取組方針が決定しました

『全体構想行動計画2019-2023』取組方針

「全体構想」の長期目標(2037年)の達成に向けて、私たちは2023年までの5年間、次の3つの分野、15の方針に基づき、取組を実施します。

1. サンゴ礁の今を調べる=「知る」

- ①サンゴ礁の実態や変化を知る
- ②サンゴ礁への陸からの影響を知る
- ③サンゴ礁を守る活動の効果を知る
- ④ひとつひとつの活動をつなぐ
- ⑤サンゴ礁を皆で見守る



2. 豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す=「守る」

- ①サンゴ礁の海を汚さない
- ②サンゴが生息できる環境を取り戻す
- ③サンゴ礁への負荷を減らす観光を進める
- ④サンゴ礁の回復を助ける
- ⑤一人ひとりが行動し皆で守る体制をつくる



3. サンゴ礁の恵みや大切さを伝える=「伝える」

- ①サンゴ礁の恵みを伝える
- ②「サンゴ礁の現状や守る取組」を皆に伝える
- ③未来につなぐため八重山に住む子どもたちに伝える
- ④サンゴ礁を守るための活動の場をつくる
- ⑤サンゴ礁を守る活動を地域づくりへと広げる



取組方針の1~3の大項目は概ね部会の内容に対応しています。

【知る】…学術調査部会

【守る】…陸域・海域対策部会

【伝える】…普及啓発・適正利用部会

